



広報 なかわだ

第333号

2007年4月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141

<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成19年4月1日



4月の予定

受難の主日	4月1日
聖木曜日～土曜日	4月5～7日
復活の主日	4月8日
委員会	4月1日



空気

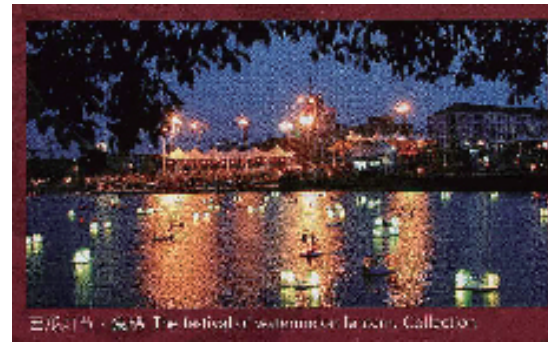


主任司祭 鈴木 勁介

ご復活おめでとうございます。

先日、中国にちょっと出かけました。上海の街は日に日に変わっているようで、20年前とは全く別の都市のようでした。人間の暮らし方ばかりでなく、生き方も変わっていくのでしょうか。いつの時代もそうであるように、良い面と悪い面を合わせ持ちながら。

その上海から車で2時間ぐらいの所に「平湖」(ピンフー)という小さな町があります。親友がプラント建設のため単身赴任している所で、西瓜で有名な町なのだそうです。そういえば、食事の度にデザートに西瓜が出てきました。一年中食べられるそうです。水がよくないので、代わりにこれを食べているのでしょうか。上海からこの町への道路もどんどん良くなっているそうです。中国では、用地獲得のため「道路を造るからいつまでにどきなさい」と政府がいえば、皆従うそうで、日本のように時間はかからないのだそうです。この町で天主公会(カトリック教会)に立ち寄り聖体訪問したところ、シスターが聖堂の灯りをつけてくれました。祭壇正面に電飾が輝き、「日本人の感覚と違うなあ」と思うとともに、日本の外国人コミュニティの人々のこともあれこれ考えました。日本人の神父であると友人が紹介すると、庭の奥に案内され、今年赴任したばかりで、叙階7年目という若い主任司祭に会うことができました。平湖の町には3500人ほどの信者がいて、教会は三つもあるのだそうです。キリスト教は活動制限があるこの国のこの田舎町でのことです。そのうち、中国服の老人が姿をみせました。老神父だそうで、88歳ということでした。私にラテン語で何か質問しようとしたのですが、よく覚えていないようでしたので、携帯電話を使って友人が会社の人に通訳するように手配しました。電話機を老神父に渡し、何かやりとりしていたようですが、質問は別にないと言っているとのことでした。惚けたせいか、電話を使うことを怪しんだせいかわかりませんが、文化大革命の苦難の時代を過ごしてきたこの老神父は柔和そのもののいい顔をしていました。「本物」というのは、語ることばでなく、その人のかもし出す「空気」だとあらためて思います。「宣教」もこの辺に鍵があるのではないのでしょうか。



平湖の西瓜提灯まつり

中国の教会も少しずつ復活の春のきざしを感じているのでしょう。その一端に触れさせていただきました。皆さんはどうか。

ここに復活のしるしを見ましたか。

中和田教会の皆さんとは小さなお別れです。やさしく迎えてくれてありがとうございました。新しい季節、仲良くやってくださいな。

委員会だより

△3月11日(日)11名出席▽

■連絡事項：行事計画

*十字架の道行き 3月16・23・30日(金)10時ミサ後(3月16日と3月23日は休み)

*3月24日(土)黙想会・赦しの秘跡：南雲師・高野師13時30分より

*聖週間

4/1(日)受難の主日9時
4/5(木)聖木曜日(主の晩餐)19時
4/6(金)聖金曜日(主の受難)19時
4/7(土)聖土曜日(復活前夜祭)19時
4/8(日)復活祭10時・ミサ後ハッピー

*6月10日(日) 堅信式9時

■審議事項

(1)聖体奉仕者
2月18日より3月4日の間公募しました。中谷田鶴・中島喜美子さんが応募されました。

その他に委員会より、宮崎佐喜男・下村毅さんが推薦された。

☆(委員会結果)上記4名の方が承認され、研修に参加していただきます。

(2)堅信式の準備報告

*第一回準備チーム打合せを2月25日(日)開催、委員長より詳細報告された。

◆子供達の堅信準備教育は高野神父の指導のもと、要理グループにて行う。

◆大人の希望者(現在1名)は、事務グループが4月15日に集約・確認し主任司祭と相談する。

*分ち合いの準備は、行事グループにお願いする。

☆(委員会結果)分ち合いの規模は復活祭並みとして、「持ち寄り歓迎」。

■各グループ連絡・報告事項

(1)宮緒G…(聖堂内装整備工事)
*3月12日(月)～3月17日(土)聖堂壁塗装・天井クロス補修工事
*3月18日(日)～3月22日(木)天井養生

*3月23日(金)絨毯・床・窓・応接室・集会室・司祭食堂・台所・二階執務室クリーニング

▽3月18日は新集会室でミサ実施。23日のクリーニングにあたり祭壇・椅子等の移動は信徒有志で行う。

(2)典礼G…

*3月典礼委員会報告

◆聖週間の香部屋準備はほぼ完了。奉仕者は、各グループにて信徒の皆さんにお願いする。

(3)財務G…

*4月より小林司祭が常駐されるので、事務費・光熱費等の予算を見直す。予算見直しに合わせ、月定献金についても、「公平であることの原則」にて財務Gで検討する。

(4)行事G…

*復活祭の準備

◆たまご作り…4月7日(土)に、たまご茹でと絵書きを行う。※行事+要理G協力で、全体統括は行事委員の石川さん

*4月15日小林主任司祭歓迎会はサロン形式で行う。

(5)広報G…

*先月委員会に報告したように、掲示板の掲示範囲を決め、表示しました。各グループの協力をお願いします。

*「連絡網」を見直し、信徒各位に配布。月定献金をされていて、連絡網に記載されていない方がいる。

☆(委員会結果)財務・広報Gで調査対応。

(6)宣教・要理G…(行事予定他)

*一粒会大会第三回打合せ報告

*07年度要理Gの行事予定、予算案説明

◆要理学校は、教材費・黙想会・遠足・夏季学校・一粒会第五地区交流会・ザビエル祭等で167千円の予定。

☆(委員会意見)要理学校予算、分担金図書予算内で効果的にお願いします。



中国・平湖の歴史文化街区

07年3月委員会後記 小野委員長

■聖週間を迎えます

信徒の皆様いろいろご協力、ご奉仕を頂いて進めて参りました聖堂改修工事も完了し、気持ちも新たに聖週間を迎えることが出来ました。

既にご案内の通り、中和田教会の神父様が4月8日のご復活の主日をもって交代されます。主日ミサ後のご復活祝賀会は、たいへんお世話になった主任司祭、鈴木勁介神父様、渡邊裕成神父様、高野哲夫神父様の歓送会を兼ねて行われ、皆様のご参加を頂き、信徒一同で心からの感謝の気持ちを表しましょう。また、浜松教会から中和田に赴任して来られる小林陽一神父様をお迎えして、歓迎会を行います。併せて、皆様のご参画をお願い申し上げます。

■新しく来られた方々を、皆で暖かく迎えましょう

皆様ご存じの通り、最近いろいろ

(7)福祉G…

*3/11「第五地区福祉関係打合」参加

(8)事務G…

*第五地区福音宣教委報告委員長

◆「新しい宣教司牧評議会及び地区の集まりについて」進捗状況説明と・藤沢カトリックセンター機能整備計画に対する意見交換。

*平成19年度教区共同宣教司牧研修(3月4日まで公募しました。)

◆キリスト教入門講座指導者養成中期コース・阿部映子さん

◆管理・運営奉仕者要請コース・小野委員長 委員会として「右記」一名を推薦。

お知らせ

✕ 転出：
小さい花のテレジア 島倉 愛江さん
宮城県 仙台教区元寺小路教会

✕ 連絡網訂正：
C地区 瀬尾さん⇒清尾さん

✕ 要理学校予定：
4/1 入学式・・・各グループに分かれて、自己紹介
4/15 歌の練習・・・高学年、低学年に分かれて、答唱詩編の練習



最近のことから二題

《その1》息子たちの霊名のエピソード

久しぶりにお会いした老シスターに「坊ちゃん達立派に大きくなられて? 霊名は?」と言われて、「マキシミアノ・マリア・コレベとベルナルドそしてパウロです」とお答えすると「まあみな大きな聖人ですこと! 天国へ行くまで共に祈りましょうね」と私は面映ゆい思いでした。

長男仁人(まさと)は、『カトリックグラフ』で意志の強い勇気の人コレベ神父のことを知り、感動してつけたのでした。次男知哉(ともや)は、あわただしい受洗の朝、式の最中泣かないようにと控え室の隅でお乳を含ませていましたところ、書類を書いていらした助祭さんの「霊名は?」との急な問いにあわてふためき、振り向きざまにすっかり忘れてしまい、「なんだかベルがついていたようですが…」ということで、誕生日の聖人、聖アルベルトのつもりがベルナルドに代わってしまったのです。しかし、このいも加減さをもとに、30代になった息子は、代父さんから頂いてあった『聖ベルナルド伝』を開き、この聖人が岸壁の上に修道院を建てて修行した中世の大修道院長、神学博士、十字軍の戦略家でもあった…ということがわかり、「すごい人だったんだね」とうなずき、私は私で、少女の頃から親しんできた『聖母の御保護を求める祈り』の239ページの祈りが聖ベルナルドの祈りであったことを知り、ずっと導かれてきた縁を感じたのでした。

三男恭輔(きょうすけ)は、高校の父母会の日、うしろの黒板に「パウロ上野」の文字が! ハハ、ヤンチャな息子はとても敬虔なクリスチャンには見えなかったのか、級友たちが驚き、からかって書いたにちがいない。担任は「なんでしょうねえ」と落書きを恥じていました。丁度、教皇ヨハネ・パウロ2世来日の2月、受洗間近で、母は感激。「ヨハネとパウロ二つ欲張らなくてもよろしい」と宮下神父様。今は、ひょうひょうと我が道を行く青年ですが、霊名を理解し、大聖人を見習ってほしいものです。

《その2》私が子ども時代の絵日記を出版したわけ

昭和21年小1～昭和32年高3の長きにわたって書いた古い絵日記が、いつの日にか紛失してしまうのもなんと残念なことなので、抜粋したものを本にまとめました。静岡新聞への掲載により、故郷静岡地方の見ず知らずの方々から「親の私が当時のことを書いておけなかったので、娘や孫たちに伝えたい」とか「病床の母が輝いていた若き日を思い出し、本から元気をもらいました」などのお声を頂き、拙著は一人歩きを始め、いろんなご縁、人の輪が広がっていきました。年配の方々には、過ぎし昭和への郷愁と心の和みのひとときを少しでも差し上げることができたならば、神様からすすめられた私のささやかなボランティア。またこの本の役目だとも思います。そして、この本の中に、私の家族と少女の私がいつまでも息づいていることを嬉しく思います。

※拙著3冊を教会集会室の書棚に置かせていただきました。興味のおありの方は、どうぞ読んでみてください。



バザーに関するお願いとお知らせ

【行事G・モニカグループ】

- *今年バザー奉仕日は設けません。
- *手作り品は、従来どおりお一人2点以上の提出をお願いします。
- なお、これ以外に編み物、縫い物などの制作を自主的に協力いただける方は、下記メンバーにお申し出ください。
- *不用衣類、新品雑貨、不用実用品などのご寄付をお願いします。
- (集会室に設置の箱にお入れください)
- 皆様のご協力、ご厚意をお待ちしております。

担当メンバー…青柳(代表)、岩崎、位田、小山、富田、七浦、永島、町田、松田

要理学校からのお知らせ



- 今年度も4月から新学期がスタートしました。活動は基本的には第1日曜日と第3日曜日の月2回です。どちらもおやつ時間を含めてミサ終了後1時間程度です。
- 第1日曜日・・・大まかに低学年、高学年と2つのグループに分かれ、歌の練習などを行います。
- 第3日曜日・・・年齢をもとに4つのグループに分かれ、各々のレベルに応じた活動を行います。
- ☆子供たちのおやつタイムの間に、親の集まりがあります。

- 現在、要理学校は宣教委員の井上さんをはじめ、岩淵さんや様々な方のお力を借りながら、親たちで運営しています。

- 新しいお仲間大募集です。おさんをお持ちの方はお気軽にご参加下さい。また、信者の皆様には何かと迷惑をおかけしているかもしれませんが、ご理解、ご協力の程をお願いいたします。



合同祈禱集会に参加して

身近なところから

小野 寺 功

去る2月18日の日曜日、午後2時から中和田教会で、第3回目の聖公会・聖クリストファー教会との合同祈禱会がありました。

以前から関心はありましたが、出席できないでいました。今回ぜひにと思い、初めて参加してみました。ここに私なりの印象をまとめてみたいと思います。

1. グルニエ神父のまかれた種

当日は、東京都で3万人のマラソン大会があった日でしたが、あいにくの雨模様で、常用の自転車をやめ、歩いて教会に向かいました。その間、以前お世話になったグルニエ神父さんのことを思い出していました。それというのも、この合同祈禱会は、グルニエ神父さんの時かれた種が発芽したもので、この発案は、聖公会の片山謙司祭との交流の中から生まれてきたと伺ったことがあるからです。

そしてそこに、身近な宗教対話の「時のしるし」のようなものが感じられ、一度出席して雰囲気を確認したいと思ったのでした。

2. 合同祈禱会のめざすもの

聖堂には意外に多くの方が集まっており、合同礼拝は、主司式が渡邊神父さんで、それに高野神父さんと片山司祭さんが加わり、式次第に従って、竹内さんの見事な司会が進められました。

今年の「キリスト教一致祈禱週間」の目標は、(1)教会の一致のために共に祈り努力すること、(2)

苦しむ人々に応えるために協力すること、の2点です。そして読まれた福音書は、「耳の聞こえない人を聞かせるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください」(マルコ7:34)という箇所でした。説教は片山司祭で、実際に教会一致の大切さを痛感させられたのは、阪神大震災で活

動した経験からであるということでした。カトリック教会とは「いのちの電話」で協力しあい、そこに宗派の壁を超えた出会いがあったというお話は、実に説得力がありました。

また、今回は珍しくプロテスタントの泉教会の潮田牧師が参加されており、後ほど茶話会の時に歓談できたことは、私にとって思いがけない収穫でした。潮田牧師のお話は、区民クリスマスの時に「心の扉が開くクリスマス」という題の説教を聞いたことがありますが、しかしこの場では、「日本人とクリスト教」の共通する諸問題について腹藏なく意見を交換することができました。その時最後に言われた「最近のカトリックの革新的なあり方は、ほんとうにすばらしい。学ぶものがたくさんあります」という言葉は、従来のプロテスタントとカトリックの長い確執を乗り越える創造的な響きがあり、心に残りました。

3. 今後に向けて

最近の教会の動きをみていますと、今私共が使用している共同訳聖書はもとより、主祷文「天にします」の口語訳も、聖公会との協力によるものと聞いています。

また、御ミサの祈りの中にも「仏教徒の兄弟」「イスラム教徒の兄弟」といった言葉が聞かれることがあり、第2バチカン公会議以降推進されてきたエキュメニズム(教会一致運動)の精神は、着実に浸透してきているといえます。このことは、宗派争いの絶えない世界の平和に大きく貢献することになるでしょう。

私の場合の実践は、個人的なものです。カルメル会の奥村一郎神父さんなどと一緒に、「禪とキリスト教懇談会」に所属し、長い間「宗教対話と自己変革」の経験を重ねてきました。これが私のカトリックの信仰の自覚を深めてくれたと思います。しかし今回は、これを身近なところから経験できて、大変有意義でした。

この合同祈禱会が終了した後の茶話会では、なごやかな話し合いの合間に、小谷さんの見事なハーモニカや、渡邊神父さんのバイオリン、片山司祭さんのギター演奏などが披露され、しばし賑わいました。この会を周到に準備してくださった方々に、心から感謝いたします。

「キリスト教一致合同祈禱会」のこと

―準備担当の一員として―

阿部 寿美恵

去る2月18日、教皇様の全クリスト者への呼びかけによる「キリスト教一致合同祈禱会」が、今年も当教会でも行われました。第1回目は中和田で、2回目は聖公会・聖クリストファー教会で行われ、今年で3回目になります。

今年のテーマは、「耳の聞こえない人を聞かせるようにし、口の利けない人を話せるようにしてください」というマルコの福音書7章・37に基づき、キリスト教会と全クリスト者が、教会の一致のために共に祈り、努力し、そして苦しむ人々の声に耳を傾けよう・・・ということでした。

今回の礼拝形式は、司会を信徒がし、賛美歌は「テゼの祈り」を用い、伴奏を聖公会の片山司祭がギターで、渡邊神父様がヴァイオリンでしてくださり、とても親しみのある感動的なものとなりました。祭壇の前には十字架を置き、その周囲に世界各地で起きている不当な現実の写真や掲載した雑誌を開いて並べ、その真ん中に籠を置いて、参加した一人ひとりが、用意されたカードに各自それぞれに罪の告白を書き込んで収めました。そして祭壇上で、神父様が祈りのうちにそれを燃やす・・・という初めての貴重な経験をいたしました。

前日から懇談会をしていた5、6年生の子ども

さん達も、よい機会だからと参加してくださったり、お隣のカンパイルランド泉教会の牧師さんもお出でになるなど、礼拝のあとの交流会も含めて、とても意義深いひとときとなりました。中和田教会の信徒の方々のご参加が少なかつたのが、たいへん残念な気がしました。

